



当院の次世代医療への取り組み

～へき地医療の経験は医師に必須の研鑽～

病院長 東山 洋

■我々の使命と2024年の取り組み

当院は、約150万人都市である神戸市の中心・三宮に隣接した神戸製鋼所発祥の地に立地しています。2024年は、昨年末に更新したダヴィンチによるロボット支援下手術の本格稼働や、1月17日、18日での病院機能評価受審、2月25日の電子カルテ更新などの課題を無事に行う事から始まりました。この間もコロナ患者さんが多く入院しており、職員の皆さんの医療者としての使命感に基づく姿勢やこれら難題解決への両立した対応に感謝しています。4月からの働き方改革開始、診療報酬改定による厳しい経営、そして少子高齢化社会における2025年問題・2040年問題への対策など医療界の課題が未だ山積しています。333床の民間病院が大都市圏の急性期医療で生き残るには、巨大公立・公的病院と同等以上の人材や実力が不可欠です。幸いにも当院は優秀な人的資産により、5期連続のDPC特定病院群、国指定の地域がん診療連携拠点病院、更にはがんゲノム医療連携病院など全国レベルの秀逸な施設認定を有しており、今後の使命は次世代医療を担う優秀な人材育成であると考えています。

■次世代医療にむけて

さらに、現在当院は医師が120人以上在籍し、高度技能手術や最先端のがん医療等を施行し、各科の専門医を育成しています。しかし少子高齢化社会の到来と共に、次世代を担う医師の必要条件是専門医のみではありません。①疾患・臓器別の専門資格、②総合診療の幅広い知識・経験、更に③病気ではなく病人を診るという「心」即ち「グリーンケアを心で聴く」の3点が必須です。そして②、③の取得に救急診療とへき地医療の経験が重要であると考えています。これは、単なる地域診療支援にとどまらず、当院にも重要な利点があります。

■地域(へき地)医療への貢献

また、当院は地域医療支援病院・神戸市第二次救急病院として、年間3,000台以上の救急車搬送に応需しています。急性期医療の対象は多くの疾患を抱えた高齢患者さんとなり、「救急医療の対象疾患のみを治療すれば無事に退院できる」という時代は終焉します。専門診療に加えて総合診療が必要になる時代が来ています。救急医療とへき地医療の経験は

総合診療の能力養成と医師としての「心」の醸成に重要であり、次世代医療を担う人材には不可欠な研鑽です。多くの職種職員から、「へき地医療支援も必要」と提案され、2019年より兵庫県内のへき地診療所の実情調査とアンケートを配布し、ご返答いただいた診療所のご要望と当院で可能な医師派遣による支援内容を検討しました。その結果、宍粟市のご依頼により、2020年10月1日より波賀診療所に当院副院長を月1回派遣してきました。その後、若手医師からもへき地医療の希望者が多数出て、2021年11月17日に「宍粟市と医師派遣に関する協定」を締結。2022年2月1日より週2回(火曜日と金曜日)で月8回以上医師を派遣しており、コロナ禍も途絶えることなく現在も継続中です。

■未来に向かって

さて、当院の情報発信はホームページのみではなく、「Medical News」という広報誌も月1回発行しています。そして今回200号となりました。この記念すべき200号に「波賀診療所への医師派遣を通して地域医療を考える」を特集したのは重要な意味があります。「三宮近傍の急性期民間病院がなぜへき地医療支援なのか？」社会医療法人とはいえ、当院の取り組みがモデルケースとなり、多くの都市部の医療機関がへき地医療を担い、兵庫県の地域医療を支える一助になれば幸いです。これからの医療需要の変化や地域医療構想に対応し、がん診療やがんゲノム診療等の高度な医療、へき地医療や救急医療の様々な経験を基盤とした専門多職種が一丸となって皆が協力・尊重しあう運営体制や協働のチーム医療を実践し、神戸の中核を担う病院としてへき地医療にも貢献していきたいと思えます。



特集 地域医療を考える



Medical News 200号記念号によせて

ごあいさつ 宍粟市長 福元 晶三

平素より、宍粟市への医療支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

またこの度は、神鋼記念病院 広報誌 Medical News 200号記念号の発刊、誠にありがとうございます。

宍粟市は兵庫県中西部(播磨地方内陸部)に位置し、平成17年4月1日に旧宍粟郡の山崎町、一宮町、波賀町、千種町の4つの町が合併して誕生しました。当市は、京阪神と中国地方を結ぶ中国自動車道と、山陽、山陰を結ぶ国道29号が市内で交差する交通の要衝となっており、市の中心部から県庁所在地の神戸市まで約100kmの位置にあります。

そして、宍粟市国民健康保険波賀診療所は、市の中心より国道29号を北に20kmの波賀町にあります。

当診療所では、平成31年3月に常勤医師の退職以降、同市内にある公立宍粟総合病院より週3回の医師派遣を受け、診療の維持を続けてまいりました。しかし、医師の高齢化による退職や医師の偏在などから、医師不足による診療の継続が難しくなっておりまして。

そうしたなか、令和元年11月に神鋼記念病院より一通の「診療支援協力に関するアンケート」が届いたことから始まり、波賀診療所、神鋼記念病院で検討・協議し、兵庫県への相談を経て、令和2年10月から神鋼記念病院より、月に1回の医師の派遣をいただくこととなりました。当初は副院長の先生方(3名)が、毎月交

代で波賀診療所の診療を支援いただきました。

こうした経緯から、令和3年11月17日に神鋼記念病院と当市が「医師派遣に関する協定」を締結しました。調印式の際、東山院長が「少子高齢化社会における医療は、疾患・臓器別専門性のみではなく、総合診療の知識・経験に加えて、病気ではなく病人を診るという『心』が必須であり、へき地医療や地域医療の要である救急医療は医師に必要な修練です。このように地域性や医療需要等の医療環境の変化に対応しなければ医師も病院も生き残れない時代である」とおっしゃっており、市区町村に囚われない医療の実践を進める強い意志に感銘をうけました。また、締結した「医師派遣に関する協定」では、令和4年2月より診療支援が「月に1回」から「週に2回(月に8回～10回程度)」に拡充し、これまで以上に波賀診療所の診療を支えていただくこととなりました。

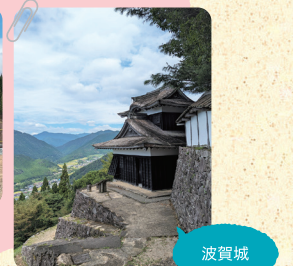
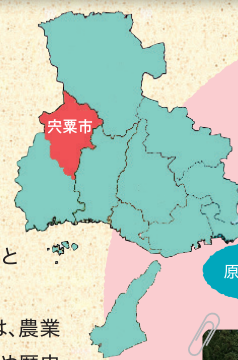
昨今では市北部地域の医療の一翼を担っており、大変心強く思っております。

これまで宍粟市の医療を支えるべく、ご尽力をいただいております神鋼記念病院の先生方に深く感謝の意をお伝えするとともに、社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院が今後も県内の地域医療を担う存在であり続け、そのお力を遺憾なく発揮され、ますますご発展されますよう祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

豊かな自然に囲まれた宍粟市は、兵庫県の中西部に位置し、神戸から車で約1時間30分、兵庫県最高峰の水ノ山に連なる山々、揖保川、千種川などの清流をはじめ、美しい自然と豊かな歴史文化が織りなす地域です。診療所周辺には日本の滝百選の原不動滝、音水溪谷、赤西溪谷や音水湖など豊かで美しい自然や風景があり、スキー、カヌー、SUPやキャンプといったアウトドアを楽しめる施設もあります。

宍粟市波賀町は人口が約3,000人で、主な産業は、農業や観光業で、そこに暮らす温かい人々が、豊かな自然や歴史文化と融合し、訪れる人を魅了します。

神鋼記念病院は、へき地医療支援として2020年より宍粟市の波賀診療所へ当院の医師派遣を行い、翌年11月に「宍粟市と医師派遣に基づく協定」を締結して、本年で4年目に入りました。Medical News 200号を記念した本号では、当院の地域医療への取り組みをご紹介します。





へき地医療支援について

副院長 呼吸器センター長 鈴木雄二郎

京都大学 昭和57年卒業
 ・日本呼吸器学会専門医・指導医 ・日本内科学会認定内科医・指導医
 ・日本内科学会近畿支部会評議員 ・日本医師会認定産業医

神鋼記念病院では2006年より、初期研修医の地域医療研修を、長崎県の平戸市民病院（および生月病院）にお願いしています。これらの病院は、長崎大学のへき地病院再生支援・教育機構（当時の名称）の支援を受けて診療を行っています。私は当時、臨床研修の責任者として、この外部研修を開始したこともあり、それ以来、何度も平戸に足を運んで、平戸の先生方と話し合いを行いました。

そこで共有された意見は以下の通りです。日本全国の非常に多くの地域で、過疎化が進んでいること。その結果として医療の偏在が発生し、医療の過疎化が、さらに地域の過疎化を進めていること。そして、このことが日本国内で極めて大きな問題になっていることなどです。

一方で、若い研修医の大半は、症例の多い都会の病院での研修を希望します。その後都会の病院で勤務を続け、家庭を持つと、子どもの教育の観点からも都会に住み続けることが多いのは、仕方のないことなのかもしれません。そのため、多くの大学では都道府県と連携し、地域枠という名前で、在学中に奨学金を提供し、卒業後一定期間、へき地医療を含む地域医療機関で勤務することを義務とする制度があります。これにより、多くの地域枠出身の医師が誕生していますが、医療の過疎化の問題は、未だ解決には向かっていないように思います。また、大学で地域枠ではなかった医師にとっては、この問題に関わらない免罪符を与えてしまっている事例に遭遇することもございます。

神鋼記念病院では、都会部で多数の医師が集まる病院の責任として、へき地医療支援で少しでも役に立つことができないか、兵庫県の担当者の方と以前より、話し合いをしてまいりました。これまで県内の他地域での診療支援の求人もありま

したが、2020年10月より、宍粟市波賀診療所に月1回の診療支援を試験的に行うことになりました。その後、同市との協定を結んで、2022年2月より、週2回の診療支援を開始いたしました。ただし、開始が新型コロナウイルスの流行の最中ということもあって、診療にはいろいろな制限がございましたが……。そして、2023年春からは、少しずつ私たちが行う診療も軌道に乗り、現場のスタッフや地域の患者さんたちに受け入れられてきたように思います。診療協力は、当院の私を含む3人の副院長と、主に後期研修を終えた医師5名～8名で、それぞれが月1回ずつ診療を分担しています。当初は、どこまで若い医師を取り込むか迷いました。一般的に、へき地医療に携わる医師の多くは、比較的高齢の方が多くと聞いています。波賀診療所でも高齢の医師が引退したことで、診療が一時的に空白になり、担当医師が不足することになりました。そのため、神鋼記念病院のへき地医療支援事業をサステナブルにするためには、若い医師を積極的に巻き込むことが必要だと考えました。また、現在担当している医師のうち4名は、当院で初期研修を受け、平戸市民病院での地域医療研修を行った経験者です。今後は、後期研修が終了した後、当院で医師として採用されるすべての内科系医師に、波賀診療



神鋼記念病院 派遣医師一覧表
令和5年8月1日現在

鈴木 雄二郎	すずき ゆうじろう	呼吸器内科
岩橋 正典	いわはし まさのり	循環器内科
藤本 康二	ふじもと こうじ	消化器外科
塩 せいじ	しお せいじ	消化器内科
生田 耕三	いくた こうぞう	消化器内科
亀村 幸平	かめむら こうへい	循環器内科
池内 美貴	いけうち みき	呼吸器内科
難波 晃平	なんば こうへい	呼吸器内科
藤本 佑樹	ふじもと ゆうき	呼吸器内科
久米 佐知枝	くめ さちえ	呼吸器内科
正木 勇希	まさき ゆうき	整形外科

所での診療協力を採用条件として打診する方針です。

さて、波賀診療所へのアクセスは、三宮を午前7時20分に発車する山崎行きのバスに乗り、午前9時頃宍粟市山崎町のバスターミナルに到着します。そこからさらに30分、宍粟市の送迎車に乗り換えて波賀診療所に到着します。そして、診療は食事休憩を含めて約4時間行い、その後再び神戸に戻ります。自宅からの往復時間も含めると約5時間の交通時間を要します。ご存じかもしれませんが、宍粟市には鉄道がないため、この路線バスが診療支援の頼みの綱と考えています。

そして診療に関してですが、やはり高齢の患者さんがほとんどです。しかし、どなたも元気に畑仕事をされたり、車の運転（地域の大事な足）をされたりしている方が多いです。働き者で、配偶者の介護を他人に任せることに抵抗を感じる方も多く、当初はこちらから、もう少し介護保険を使った福祉資源の活用を患者さんに勧めること

が多かったように思います。基本的に検診の受診率は良いようですが、何かの理由で検診を受けられなかった方には、胸部のX線（レントゲン）撮影、心電図や採血などを行って疾病予防に努めています。私は心音と呼吸音の聴診は全患者さんに行うことにしていますが、あるとき、たまたま湿布薬をもらいに来た患者さんの聴診で心房細動が判明し、宍粟総合病院に紹介したこともありました。そして、都会の病院の診療と異なることは、患者さんの生活環境を、医療スタッフがみんなよく知っていることです。どんなところに住んでいて、何をしていた、家族は何人かというような事をスタッフが知っているおかげで、その患者さんの本当に困っていることがわかりやすいのです。このような情報は私たちの日常の診療の中でも大切な要素ですが、実際には十分に聞き取れていないことも多く、そういったことを知るためにも、多くの若い医師たちにへき地医療に参加してもらえればと考えています。



特集 地域医療を考える

では、なぜ神鋼記念病院のような都会の病院が、へき地医療支援に取り組むのでしょうか。たとえば、宍粟市の宍粟総合病院はへき地医療拠点病院として、多くのへき地医療支援を行っています。波賀診療所も、もとより宍粟総合病院の医師のご尽力で診療を継続していました。そして宍粟総合病院から波賀診療所までは車で約30分です。私たちのように交通に時間と費用をかける必要はありません。しかし、医師数でみると、神鋼記念病院は、宍粟総合病院と比べ、病床数は1.5倍ですが、常勤医師数は約4倍です。当院に限らず、都会部の病院はどこも医師数が非常に多いという特徴があります。この都会部に集中している医師のマンパワーで、へき地の診療を少しでも分担することができれば、医療の偏在の解決につながると考えています。まだまだ私たちのへき地医療支援は、ささやかであり、これだけでは問題の解決に向かうものではありません。しかし、

同じような都会部の病院が、当院と同じような支援を始めれば、この問題は解決に向かっていくと考えています。すべての人々が、節電をしたり、ゴミの分別を行ったりして、少しずつ未来を変えていくように、今私たちも、未来を変えることを考えなければなりません。当院の職員にも、宍粟市出身者がいます。このへき地医療支援の話聞いて、「神鋼記念病院の職員として誇らしい」との感想を述べていました。これはとてもすばらしいことです。へき地医療支援を行うことが、すべての病院職員の誇りになればと願っています。

最後に、へき地医療支援が、担当する若い医師たちの強い業務負荷となってしまえば、医師の働き方改革に逆行する大問題となります。私たちは、時間外勤務が増えないように、関連する診療部門と協力し、その責任を果たしていくことをこの場を借りてお約束し、当院がより質の高い医療をご提供できるよう努めてまいります。



TC神鋼不動産サービス

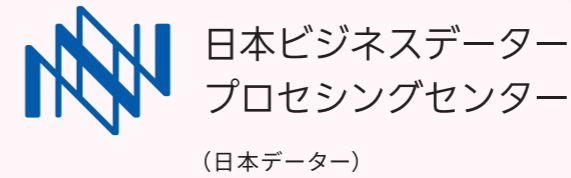


株式会社 あすか Asuka 医療人材派遣・有料職業紹介

- 病院寝具リース事業、ユニフォームレンタル事業 -
新関西衣料サービス株式会社

- 『安心』のウォーターライフをサポート -
アクアクララ兵庫
0120-113204
兵庫県加古郡稲美町六分一1352-1

すべては、ひとから



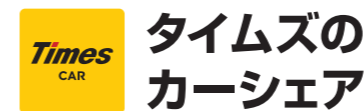
支えよう、医療。

CM特設サイト



医事業務全般 / 医師事務作業補助 / 各種受付窓口 / 会計外来・病棟クラーク

【神戸本社】神戸市中央区伊藤町119 大樹生命神戸三宮ビル3F



入会 キャンペーン 実施中



入会特典

カード発行手数料
通常 1,650円
月額基本料金
通常 880円

0円
月額基本料金は3か月間

さらに /

30分×3枚
カーシェアeチケット
プレゼント!*

※分割利用不可 ※ナイトバックにはご利用いただけません ※1回の予約につき、チケット1枚の利用が可能です ※カーシェアeチケットは、入会時に1枚、ご利用開始月の翌月に1枚、翌々月に1枚プレゼントされます

申込方法

※本キャンペーンは予告なく終了する可能性があります。

パソコン・スマホで下記URLより入会申請いただいた方のみ
<https://share.timescar.jp/sp45137>



<ご注意> ※パソコン・スマホからの入会申込は、「スグ乗り入会」または「インターネット入会」、「クイック入会」が特典の対象となります。 ※「クイック入会」の場合は、申込受付期間内に店舗にて入会手続きを完了した方のみ特典の対象となります。 ※法人契約のお客様は本キャンペーンの対象外です。 ※店舗での飛込入会の場合は対象外です。 ※入会後の家族会員の追加は対象外です。 ※入会特典の内容等は変更になる場合がございます。 ※本キャンペーンで申し込まれた場合、ご利用開始月から3か月間は、通常の「個人プラン」「家族プラン」に含まれている無料利用分(880円分)は付きません。 そのため、ご利用開始から3か月間は、実際にご利用いただいた利用料金分のみのご請求となります。 また、過去に個人会員(個人プラン・家族プラン・学生プラン)だった方の再入会は対象外となります。 ※「サポートカー限定条件付きの免許」では、入会は受け付けできませんのでご注意ください。 ※詳細はWebをご覧ください。

※2024年2月時点。 ※料金は税込みです。

* 簡単! アレンジちらし寿司 *



1人分栄養量

熱量:477kcal
たんぱく質:18.5g
脂質:9.3g
炭水化物:76g
塩分相当量:1.3g



ちらし寿司は酢飯の上に錦糸卵や魚介類などをのせたお寿司の一種です。いろいろな作り方や具材がありますが、今回は簡単に作れてアレンジしやすいレシピをご紹介します。蒸しえびの代わりにマグロやサーモン、いくらなど好きな具材を彩りよく盛付ければ、いつもの食卓が少し豪華になります。

管理栄養士 田中 利幸

● 材料(2人分)

- ご飯……………2合(360g)
- むき蒸しえび……………80g
- 卵2個……………100g
- 人参10分の1本……………18g
- さやえんどう4枚……………8g
- ごま大さじ1……………10g
- 合わせ酢
(酢大さじ1と1/3《20g》
砂糖大さじ1と1/2《14g》
塩小さじ1/3《2g》)

● 作り方

- ① 酢、砂糖、塩を耐熱容器に入れてレンジで30秒加熱し、取り出して砂糖と塩が完全に溶けるまでかき混ぜる。
- ② 炊けたご飯に①とごまを加えてしっかりと混ぜる。(すし飯)
- ③ 卵を溶いてざるでこす。フライパンにサラダ油をひき、中火で熱したら一度濡らした布巾の上に10秒間おく。コンロに戻し、液卵1個分を流し込んで薄く広げ弱火で焼く。両面を焼いて火からおろし、重ねて折りたたむ。残りの液卵も同様に焼いて折りたたむ。端から細く切ってほぐす。(錦糸卵)
- ④ さやえんどうの筋を取る。湯を沸かして塩を小さじ1程度加え、さやえんどうを入れる。1分ほど茹でてざるに上げ、冷水に浸けて冷ます。水気を切って半分に切る。
- ⑤ 人参を5mm程度の厚さの輪切りにしたものを型どり、5~6分茹でる。
- ⑥ すし飯の上に錦糸卵をまんべんなくひろげ、蒸しえびと錦糸卵、さやえんどう、人参を盛り付ける。



Touch your heart

~“ありがとう”の数だけ、私たちがいる~

編集後記

Medical Newsの「これまで」と「これから」 広報委員長 松本 元



Medical Newsは2007年7月に第1号が発行されてから定期的に発刊を重ね、このたび200号の記念号となりました。誌面では、各診療科や各部署の紹介や、コラム、料理のレシピなど、疾患や診療の情報が留まらず健康に関するトピックスをお届けしてきました。また、近隣の先生方のご協力もあり、医療機関のご紹介なども情報として提供してきました。

2020年から編集責任者を拝命して4年ほどですが、その間だけでも新型コロナウイルスのパンデミックによる混乱もあり、社会は大きく変化しました。また、当院においても、国指定の地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院に相次いで指定されるなど、求められる期待、責任は以前にも増して大きくなっています。加えて近年の診療技術や検査方法ならびに治療の進歩は目覚ましく、疾患に関する知見も急速に増加し、発信すべき情報は加速度的に多くなっています。そのため、これらの情報発信も我々の重要な責務と考えています。

これからも、コンテンツを充実させ、有用な情報をできるだけタイムリーに、近隣の医療機関の皆様だけでなく、患者さんに対してもお届けできるように努めていきたいと考えています。

これからのMedical Newsにも是非ご期待ください。



2024年 3月
Vol.200

神鋼記念病院

Contents

- 200号記念のごあいさつ
- 地域医療を考える
- ヘルシーレシピ

■ 神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して皆様に愛される病院を目指します。

■ 基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。
6. 職員が心身ともに健康で、一人ひとりの能力を発揮できる職場づくりを推進します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47
TEL:078-261-6711 (代表)
FAX:078-261-6726
URL:https://shinkohp.jp
発行責任者: 理事長 山本 正之
編集責任者: 神鋼記念病院広報委員長
松本 元

詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院 🔍 検索

https://shinkohp.jp

